

診療案内

	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	△
午後 2:30~ 7:00	○	○	※	△	○	△	△

※ 乳幼児健診/水曜日 午後 2:30~(予約制)一般診療は午後4時からとなります。

◆ 他に、小児の心理相談「のびのびクラブ」を行っています。(完全予約制)

お知らせ

★毎週 金曜日の午後は、診療担当医が変更になります。

5月5日(祝)は、休日医科診療を行います。

電話連絡の上、ご来院ください。

(受付は午後7時30分までです。健診や予防接種は行いません。)

BCG 接種日程(完全予約)

以下は受付時間: 12時20分~12時30分

4月 26日(火)・5月 10日(火)・5月 18日(水)

5月 27日(金)・6月 8日(水)・6月 14日(火)

6月 24日(金)

発行者/医療法人社団 櫻美会 石川医院

〒174-0071 東京都板橋区常盤台1-61-3 ☎03(3960)3940

ホームページアドレス <http://www.ishikawa-iin.or.jp/>

※ 電話番号はお間違いのないようご注意ください

ishikawa-iin information

いしかわ いいん つうしん 石川医院通信

153



 石川医院 2022
5・6月

※看護師から※

〈1歳未満の乳児に「はちみつ」をあたえてはいけません〉という表示を目にしたことがあるでしょうか。1歳未満の乳児は腸内環境が未熟なため、はちみつにボツリヌス菌が混入していた場合、乳児ボツリヌス症を起こすことがあります。

ボツリヌス菌は、乾燥や熱に強い「芽胞（がほう）」を形成する菌で、海・川・湖や土壌に広く存在しています。芽胞は、低酸素状態に置かれると発芽、増殖し、極めて強い毒素を産生します。ボツリヌス症は、乳児ボツリヌス症とボツリヌス食中毒に分類されます。

*乳児ボツリヌス症とは

症状は、便秘や哺乳力の低下、泣き声が小さくなる、全身の筋力低下などの症状がみられ、重症化すると呼吸困難に陥り死に至ることもあります。ボツリヌス菌は熱に強いので、はちみつを使った食品（菓子など）にも注意が必要です。主に育児をしているお母さん、お父さんだけでなく、祖父母や同居している家族などにも、乳児にはちみつを与えてはいけないことを伝えましょう。

*ボツリヌス食中毒とは

ボツリヌス毒素が産生された食品を摂取後、8時間～36時間で、吐き気、嘔吐や視力障害、言語障害などの神経症状があらわれるのが特徴で、重症例では呼吸麻痺により亡くなることもあります。

予防のポイントは、一般的な細菌と異なり、熱に強い芽胞のため、80℃30分間、100℃なら数分以上の加熱をしなければ完全に死滅しません。家庭で缶詰、真空パック、ビン詰め、「いずし」などを作る場合には、原材料を十分に洗浄し、加熱殺菌の温度や保存の方法に十分注意しないと危険です。真空パックや缶詰が膨張していたり、食品に異臭（酪酸臭）があるときには絶対に食べないでください。今年2月に、知人が自宅で調理した「アユのいずし」を食べた方のボツリヌス食中毒が報告されています。

これから梅雨から夏に向けて、気温の高い時期は食中毒のリスクが高まります。コロナ禍の中で、テイクアウトやデリバリーを利用する機会が多くなっていると思われます。調理してから食べるまでの時間が長くなりがちです。衛生管理を徹底し、食中毒にご注意ください。

*参考文献 厚生労働省 食中毒
東京都福祉保健局 ボツリヌス菌 食品衛生の窓

※受付・事務から※

- ☆ 12才以上の新型コロナウイルスワクチン接種を引き続き行います。当院で接種ご希望の方は、予約をお願いします（電話可）。
- ☆ 令和4年度の板橋区民健診（骨粗鬆症検診、区民一般健診、35歳健診、国保特定健診、後期高齢者医療健診、大腸がん検診、肝炎ウィルス検診、前立腺がん検診、胃がんリスク検診）は6月1日から行います。完全予約制です。詳細は受付にお尋ねください。
- ☆ 風しんワクチンの第5期定期接種の期間が延長されました。令和元年～令和3年に発行したクーポンは令和6年2月末まで使用できます。
- ☆ 発熱やのどの痛み、下痢など感染症を疑うような症状で診察を希望される方は、予め電話ください。
- ☆ これから梅雨に入ります。毎年傘のとり間違いが大変多くなっております。ご注意ください。

※院長から一言※

4月中旬から、暑くなってきましたね・・・。

急に気温が上がるときは、体が慣れていないので熱中症になりやすくなります。それほど気温が高なくても、そして室内でも熱中症になるので、注意が必要です。「大して暑くない」と思う時でも、温度計を身近において室温など確認するようにしてください。また、「マスク熱中症も注意が必要です。」



外にいる時は、人混みを避けて短時間マスクをは水分をとってください。

特に2歳未満のこどもさんのマスク着用には、注意が必要です。小さい子どもさんは、口呼吸になります。おとなが常に状況を見守るようにしましょう。

（日本小児科学会HPから）

